

「重症患者における末梢静脈カテーテルによる静脈炎の発生頻度とそのリスク因子の検討」研究へのお誘い

(AMOR-VENUS study)

2017年10月7日

亀田総合病院集中治療科 安田 英人

この度、多施設共同前向き観察研究「重症患者における末梢静脈カテーテルによる静脈炎の発生頻度とそのリスク因子の検討」(文部科学省科研費若手(B)取得済み)を実施いたしますので、是非とも本研究への参加協力をいただきたくご連絡しております。

本研究の目的は「ICUにおける末梢静脈カテーテルの合併症、特に静脈炎の発生頻度とそのリスクファクターの調査」であり、近年注目されている重症患者における末梢静脈カテーテル合併症の実態を明らかにすると共に、そのリスク因子を抽出し今後の末梢静脈カテーテル管理を見つめ直すことを目的としています。一般病棟患者と違い、ICU入室患者においては様々な薬剤が投与されることにより化学性静脈炎の頻度が増加すると考えられていますが、そのリスク因子に関しては未だ不明な点が多いとされています。本研究では、末梢静脈カテーテルごとに投与された薬剤の濃度、投与速度、投与期間を詳細に検討することにより、これまで評価できなかった薬剤による静脈炎のリスクを検討することを大きな目的としています。

対象:18歳以上のICU入室患者

対象期間:2018年1月1日-2018年3月31日(3ヶ月間)

対象カテーテル:末梢静脈カテーテル及びその他の血管内留置カテーテル

情報収集項目:末梢静脈カテーテル挿入時及び抜去時情報、挿入中に投与された薬剤、静脈炎所見の観察(4時間毎)

主要評価項目:末梢静脈カテーテル静脈炎及びそのリスク因子

研究の詳細につきましては JSEPTIC-臨床研究委員会ホームページをご参照いただけたら幸いです。研究計画書及びプレゼンテーションスライドを掲載しております。

本研究では、末梢静脈カテーテルから投与された薬剤の安全性評価のために、対象となった患者に投与される薬剤情報を末梢静脈カテーテルのみならず、中心静脈カテーテルからの投与も含めて詳細に全て収集する予定です。これにより、post-hock 研究として様々な疾患に絞って、バイタルサイン、様々なパラメータ値などと薬剤投与信息を絡めた研究を実施することも可能になります(ただし、追加でバイタルサインなどの情報を各施設に依頼することが必要となります)。すでに敗血症性ショックにおけるカテコラミン投与の推移と予後の関係や心臓血管外科術後患者における輸液投与と合併症の関係などが検討されています。

色々な副次的な研究へ応用することができるデータベース作成(薬剤データベース)が可能となりますので、ご参加のご施設においては本データベースを自由な発想の元活用していただければと思っています。是非ともご興味のある方がいましたらご協力宜しくお願い致します。

なお、施設ごとに最適な薬剤情報収集方法が異なりますので、研究のプレゼンテーションも含めて各施設にお伺いしておりますので、ご興味のあるご施設の方は是非とも遠慮なくご連絡いただけたらと思います。あらためて詳細にご説明いたします。

連絡先は、

安田 英人(亀田総合病院集中治療科)

[yasudahideto@me.com](mailto:yasudahideto@me.com)

となります。

なお、本研究の Kick off meeting を救急医学会総会開催に合わせて、

10月24日(火):17時半-

アットビジネスセンター大阪梅田

で開催する予定としています。

ご連絡をお待ちしておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

AMOR-VENUS study Group

研究責任者・研究代表者

・安田 英人(亀田総合病院集中治療科)

共同研究者

・林 淑朗(亀田総合病院 集中治療科)

・志馬 伸朗(広島大学大学院医歯薬保健学研究科 応用生命科学部門救急医学)

・森兼 啓太(山形大学医学部附属病院検査部)

・阿部 貴行(慶應義塾大学医学部 衛生学公衆衛生学教室 臨床研究推進センター 生物 統計部門)

・武林 亨(慶應義塾大学医学部 衛生学公衆衛生学教室)

・前田 幹広(聖マリアンナ医科大学病院 薬剤部)

・近藤 夏樹(亀田総合病院 集中治療科)

・山本 良平(亀田総合病院 集中治療科)

・谷本 唯(亀田総合病院 薬剤部)

・高瀬 暁(亀田総合病院 看護部)